

ふるさと文化の館情報

美術館

中村二夫作品展を開催

小野町出身の陶芸家・中村二夫(つぎお)さんの作品展「中村二夫 故郷の土を焼く」が、4月24日から5月5日

まで開かれました。会場には今回初めて披露された「小野の土」を使った作品が並び、来館者たちの興味を引いていました。

また、初日には中村さん本人によるギャラリートークが行われ、「小野の土」の特性や作品に込めた思いなどを

中心に、約40分間にわたって展示作品の解説をしていただきました。

解説終了後、陶芸の奥深さをゆっくり味わうように、作品を手にとったり見比べたりしている参加者たちの姿が見られました。

花器を寄贈

中村二夫さんから町に「藁釉窯変花器」を寄贈していただきました。この花器は小野の土を使った作品で、美術展の会期中も来館者の目を楽しませてくれました。

中村さんにはこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。



ふるさと文化の館 ☎72-2120

図書館

現在私たちは、エネルギーや環境問題について今まで以上に身近なこととして考えなければいけない時期にきています。本書は環境問題について書かれたものですが、これらの問題を考えるときに何らかのヒントを与えてくれるはずです。

1962年、アメリカで出版された1冊の本があります。『沈黙の春』(レイチェル・カーソン／著 新潮社／刊)です。この本は生物学者である著者が化学物質による環境問題について問題提起した本でした。専門的な言葉を並べ立てず、より平易な言葉で多くの人々に環境問題を考えるきっかけを作った名著です。



『沈黙の春』

(レイチェル・カーソン／著 新潮社／刊)

BOOKS



『やかまし村の子どもたち』
(アストリッド・リンドグリーン／作 岩波書店／刊)

『やかまし村の子どもたち』(アストリッド・リンドグリーン／作 岩波書店／刊)はスウェーデンの作家リンドグレンの代表作です。
やかまし村には家が3軒しかなく、子どもは全部で6人。その中の1人、リーサを中心とした、小さな農村の日常が描かれています。リーサが初めて自分の部屋をもらった時のうれしい気持ち、干し草の中で寝たり、遊び小屋を作った時のわくわくドキドキな気持ち…など、子どもの気持ちが豊かに表現されています。自然の中でのびのびと過ごす子どもたちと一体化して楽しく読めると思います。子どもも純粋さや素朴さがあふれる物語です。